

広報すぎなみ

Suginami

9/1
平成29年(2017年)
No.2210



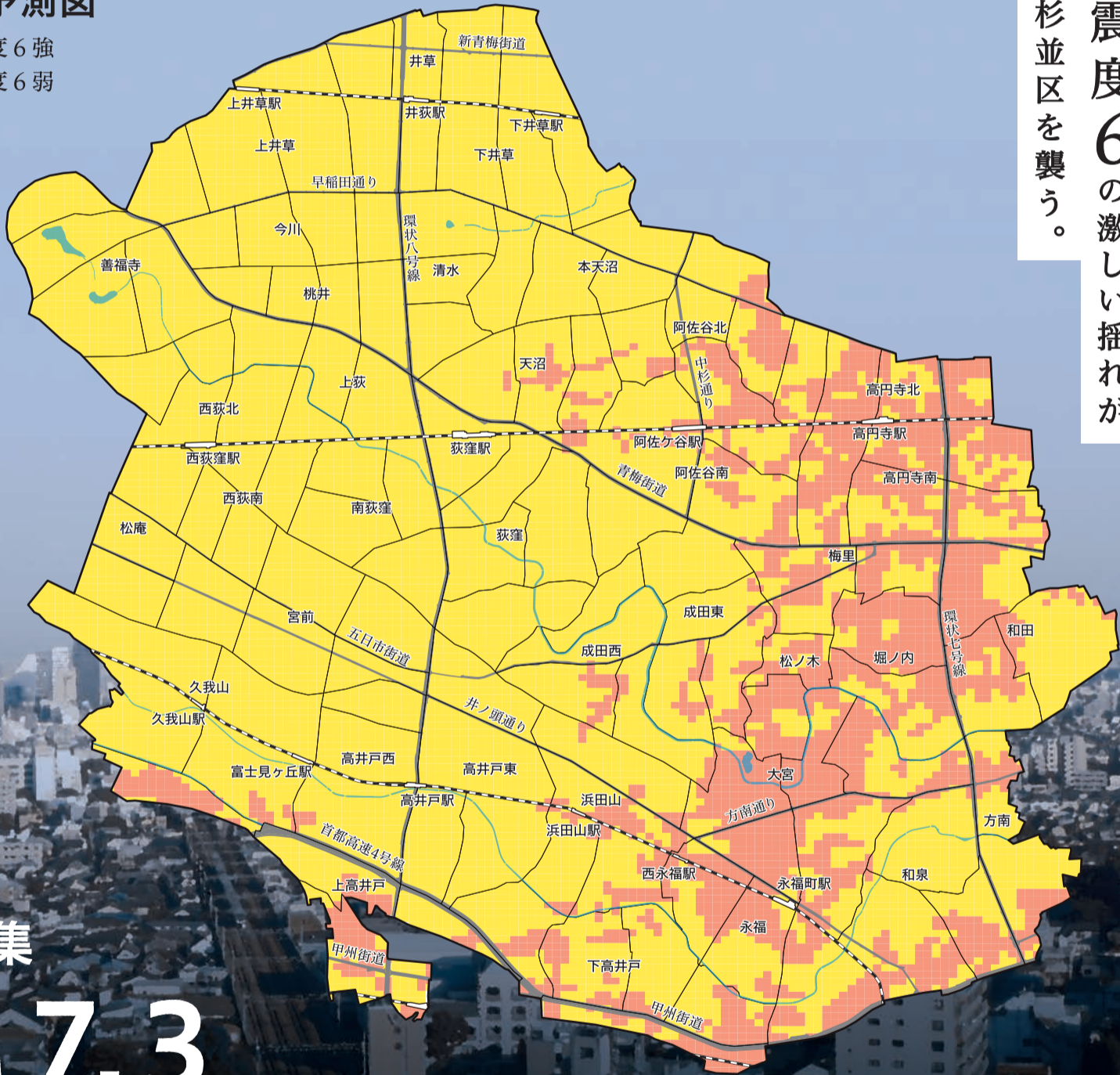
支えあい共につくる
安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並

地震は起きる。
その時が来る前に。

みどりの住宅都市 杉並。
今、この時、ひとたび大地震にみまわれたら…。
地震による焼失・倒壊、人的被害はどれほどのものとなるのでしょうか。今回、区は高い確率で発生が予測される首都直下地震を想定して、被害シミュレーションを実施しました。地震はいつ起きるか分かりません。だからこそ、備えが皆さんの命を救います。共に、災害に強いまちを目指しましょう。

震度予測図

- 震度6強
- 震度6弱



その時、
震度6の激しい揺れが
杉並区を襲う。

特集

M7.3 首都直下地震被害想定

※首都直下地震は、東京湾北部を震源地とする「東京湾北部地震」(M7.3=マグニチュード7.3)を想定。土地利用現況調査・地盤調査データ等を用いて23区初となる50m×50mごとの被害想定を算出した。

Contents — 主な記事 —

- 5 | 区議会の傍聴にお越しく下さい
- 7 | がん検診を受けましょう!
- 9 | 連載「区立施設の再編を考える」
- 10 | 保育・介護サポートスタッフ就業体験セミナー

マグニチュード7.3 首都直下地震被害想定

防災・減災対策で
救える命がある

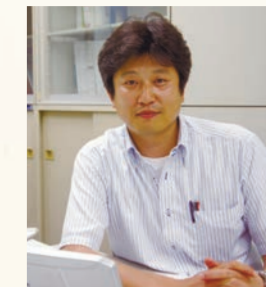
今後30年以内に非常に高い確率で発生すると予測される、マグニチュード7クラスの首都直下地震。区では被害が最も大きいとされる「東京湾北部地震」を想定。27年度末の区内建築物12万2904棟の耐震化・不燃化等の状況、地盤データ、消防庁のデータ等を活用して、50m×50mごと（50mメッシュ）の震度予測や被害のシミュレーションを行いました。

今、大地震が発生したらその被害は甚大です。しかし、区民の皆さんと区が協力し合い、建物の耐震化・不燃化を進め、自分を守り、地域を守る「災害に強いまち」を目指すことで、地震の被害は大きく減らすことができます。共に取り組んでいきましょう。

今回のシミュレーションは、地震の規模や震源地、発生時刻や風速など、一定の条件を設定して行った想定の一つです。実際の首都直下地震の被害は、今回の想定結果と比べて小さい場合もあれば、大きい場合もあります。この結果だけにとらわれず、大規模な地震に備えていくことが大切です。

学識経験者からのメッセージ 東京大学生産技術研究所准教授 加藤孝明

「災害はいつ来る」と思いつつも、なかなか防災・減災対策を進める気にはならないのが普通です。でも、今から始められます。近年、日本社会の防災意識は高まっているように見えます。しかし、しよせん、他の地域の災害は他人事かもしれません。まずは、ここ杉並区でどのような災害が起こり得るかを正しく知る必要があります。その手がかりが、今回のシミュレーションです。日ごろ見慣れた近所の光景と重ね合わせ、今、地震が起きたらどのような状況になるかを想像してみてください。自分事としての災害への備えが始まります。



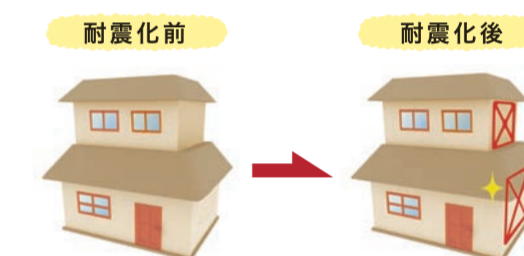
自分を守り、地域を守る

「災害に強い防災まちづくり」の実現へ

区民の皆さんと耐震化や不燃化に取り組むとともに、狭あい道路拡幅整備などを進めていくことで、災害による被害を低減させることができます。区はそのための支援・助成をしています。

耐震化促進

昭和56年5月以前に建てられた建物について、耐震診断・耐震改修費用などの助成や耐震化に関するアドバイザーの派遣を行います。



不燃化推進

不燃化推進特定整備地区（不燃化特区）に指定されている地域について、老朽建築物の解体除却費や戸建て住宅の建て替え工事費を助成します。



狭あい道路拡幅整備

前面道路の幅を4m確保するために後退する際、後退部分にあたる門や塀などの撤去費用を助成し、その部分を拡幅整備します。



その他の事業

- 杉並区感震ブレイカー設置支援事業、家具転倒防止
- 都市計画道路整備など器具を含めた杉並区防災用品あわせん事業など
- 高齢者のみの世帯、障害者等がいる世帯への家具転倒防止器具の取り付け支援

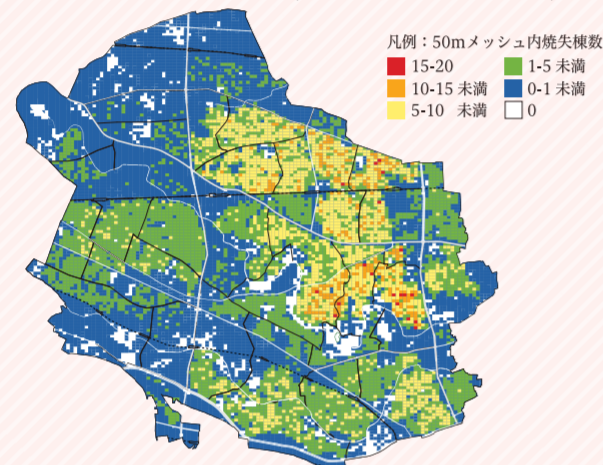
区ホームページでシミュレーション結果を拡大して閲覧できます。また、建築課不燃化推進係窓口でも拡大版の図面をご覧になれます。
http://www.city.suginami.tokyo.jp/guide/kyukyuu/jishinsoutei/1035447.html

今回のシミュレーション結果の詳細の展示を9月5日(火)・6日(水)の防災まちづくりフェアで行います。詳細は、7面をご覧ください。

被害想定

焼失

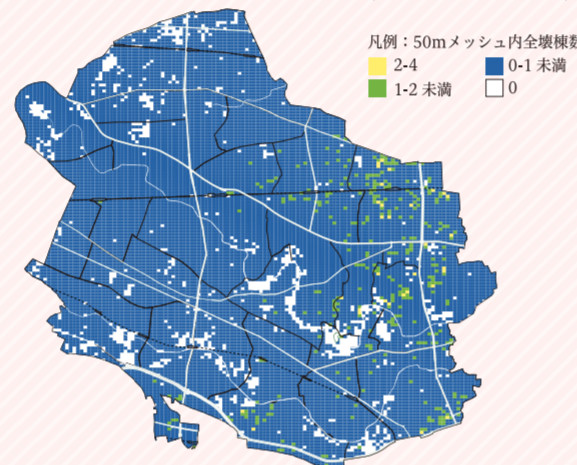
約5棟に1棟が焼失
(2万7161棟焼失)



冬の午後6時、風速8m/sの場合の延焼被害予測です。木造住宅密集地域を中心に延焼による焼失被害の広がりが想定されます。

全壊

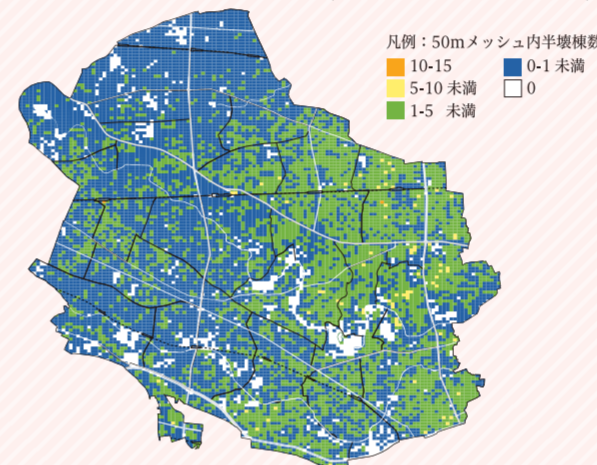
約50棟に1棟が全壊
(2523棟全壊)



震源地（東京湾北部）に近い区東部に被害が多く発生することが想定されます。

半壊

約10棟に1棟が半壊
(1万2084棟半壊)

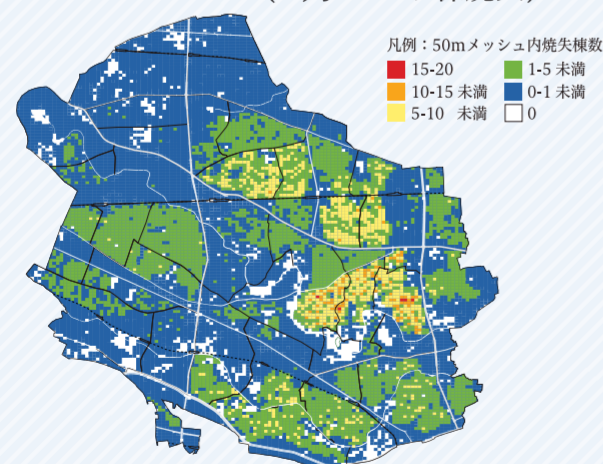


震源地（東京湾北部）に近い区東部を中心に区全域に被害が発生することが想定されます。

皆さんのご自宅の耐震化・不燃化などが進み、災害に強いまちが実現したら

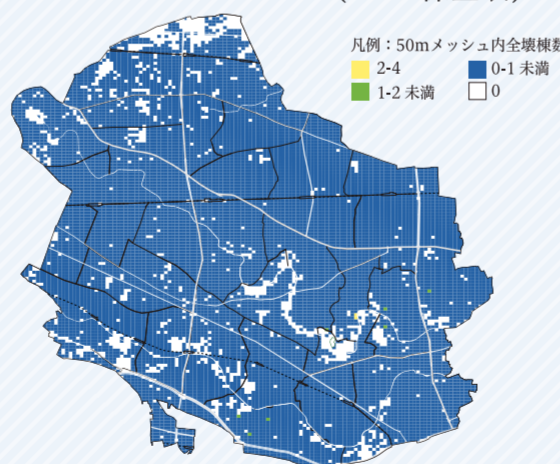
減災効果

焼失棟数36%減
(1万7349棟焼失)



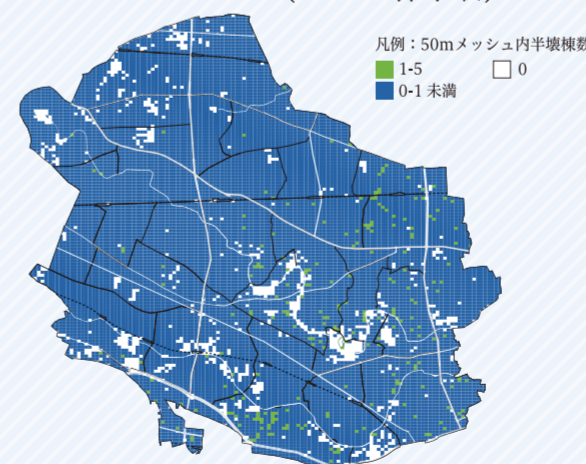
木造住宅密集地域を中心にまだ被害があるものの、区全体では、被害の軽減が見込まれます。

全壊棟数82%減
(447棟全壊)

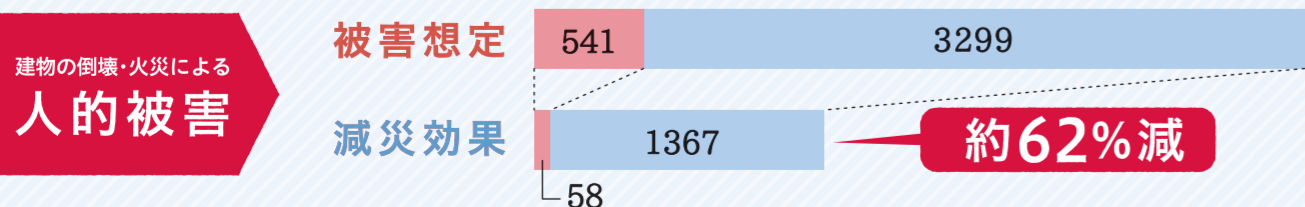


大幅な被害の軽減が見込まれます。

半壊棟数79%減
(2503棟半壊)



大幅な被害の軽減が見込まれます。



減災効果の前提条件として、耐震化率96%、不燃化特区の不燃領域率70%、狭あい道路拡幅整備100%、都市計画道路第4次優先整備路線および「すぎなみの道づくり（道路整備方針）」に掲げる優先整備路線の整備が完了した場合を想定しています。